

4. 計画規模

全体の延床面積は、**20,000 m²以内**とします。(現病院活用分を除く)
面積の内訳は、概ね右表を目安としますが、今後の設計等の段階で精査していくこととしています。

新病院の整備面積の内訳 (単位: m²)

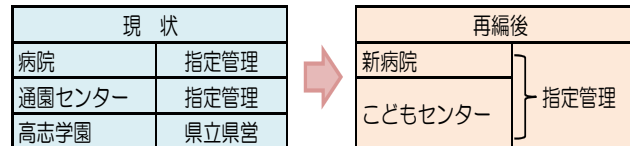
部門名	現状面積※	計画面積	概要
外来	約1,500	約2,400	診察室、受付、待合、処置室等
病棟	約4,000	約6,400	病室、浴室、訓練室、食堂等
手術	約600	約700	手術室、中央材料室、家族室等
訓練	約1,500	約2,000	療法室、日常生活動作訓練室等
検査	約300	約300	検査室等
放射線	約600	約500	一般撮影室、操作室、読影室等
栄養	約600	約600	厨房、食品庫等
こどもセンター	約4,800	約5,000	居室、訓練室、保育室等
管理 等	約5,100	約2,100	機械室、レストラン、倉庫等
計	約19,000	約20,000	

※高志リハビリテーション病院、高志学園、高志通園センターの合計面積

5. 運営体制

(1) 病院運営及び組織体制

全体として**指定管理**とし、運営の一体化によるスタッフ間の連携強化と良質なサービスの提供を行います。



(2) 病床数(入院・入所)及び利用定員

現在の利用状況を踏まえ、病床数を**202床(病院150床、こどもセンター52床)**とします。

病床	リハビリテーション病院	150床	±0床
	こどもセンター(入所)	52床	△24床
	計	202床	△24床
定員	こどもセンター(通所)	70人	±0床

(3) 診療体制

重症患者、高次脳機能障害者、神経難病患者のほか、重篤な合併症をもつ患者などへも対応するため、3施設の診療科目を引き継ぎ、**総合診療体制を維持**します。

常設診療科	非常設診療科	専門外来
内科	泌尿器科、精神科	シーティングクリニック
神経内科	皮膚科、眼科	パーキンソン病
小児科	耳鼻咽喉科	脳波、嚥下
整形外科	脳神経外科	糖尿病、肥満
リハビリテーション科	歯科	てんかん、発達

6. 概算事業費

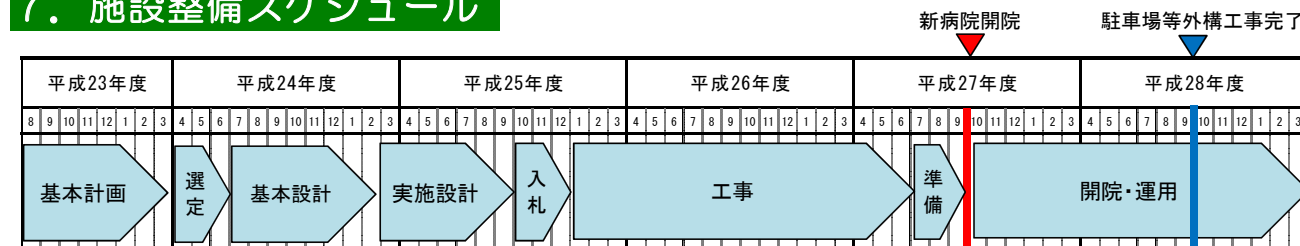
概算の事業費は、**7,400百万円**とし、その内訳は概ね右表のとおり予定しています。

概算事業費の内訳

基本計画策定、事前調査等	25,000 千円
設計費	188,000 千円
建築費	6,000,000 千円
電子カルテ等導入費	350,000 千円
医療設備費等	660,000 千円
工事管理その他	177,000 千円
合計	7,400,000 千円

※既存施設の解体・改修費、駐車場整備費等は含まない

7. 施設整備スケジュール

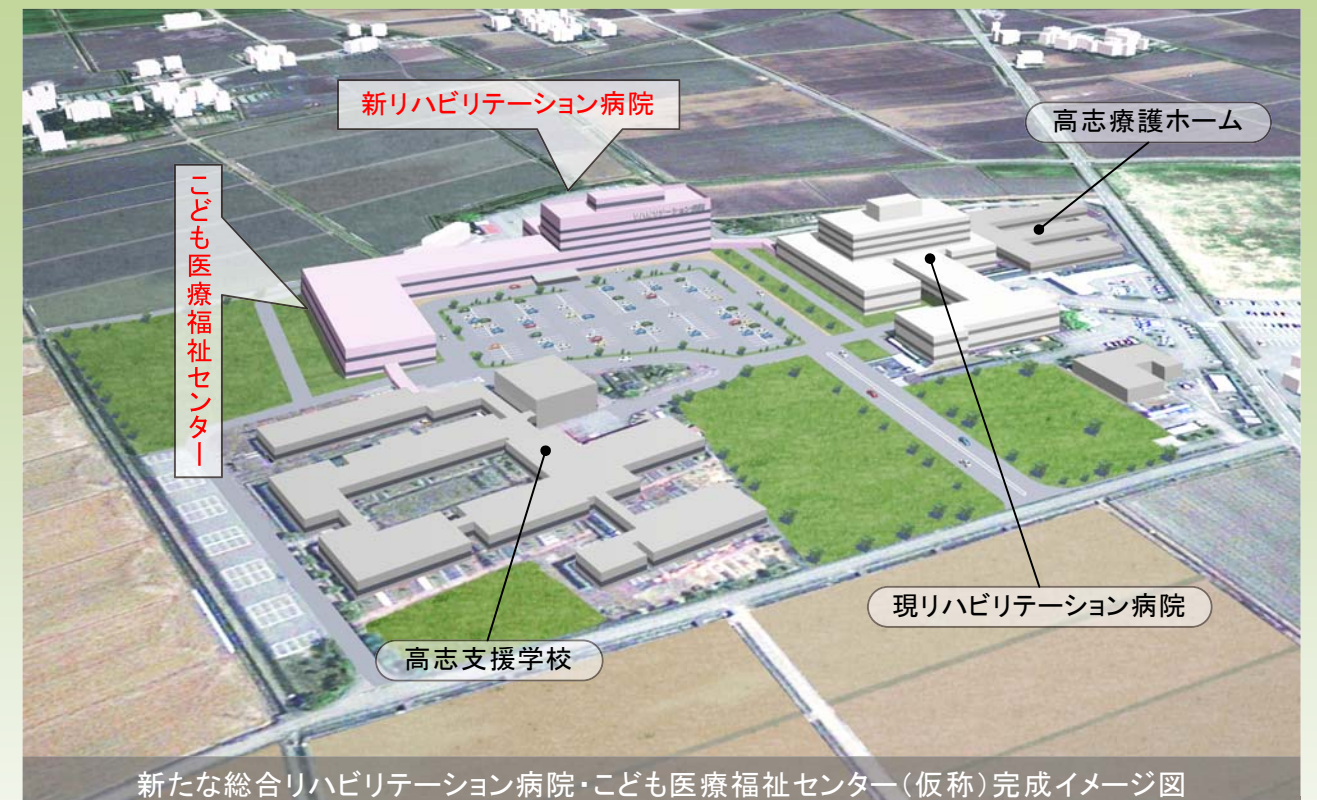


新病院は、上図のスケジュールにより、**平成27年10月の開院をめざします**。また、新病院開院後、現病院の改修、高志授産ホーム等の移転・解体を経て、駐車場や構内道路等の外構工事に着手し、平成28年10月の完成を予定しています。

注)平成24年4月からの新サービス体系移行にともない、「高志授産ホーム」「高志更生ホーム」「高志福祉作業センター」は、それぞれ「高志ワークホーム」「高志サポートホーム」「高志ワークセンター」に名称変更されています。

新たな総合リハビリテーション病院・こども医療福祉センター(仮称)整備 基本計画【概要版】

県では、高度・専門的なリハビリテーション医療を提供するとともに、重症の心身障害児等に対する支援体制を充実・強化するため、高志リハビリテーション病院、高志学園及び高志通園センターの3施設を新たな総合リハビリテーション病院・こども医療福祉センター(仮称)として再編し、一体的に整備を行うこととしています。



富山県立高志学園



富山県高志リハビリテーション病院



富山県高志通園センター

1. 現状と課題

高志リハビリテーション病院

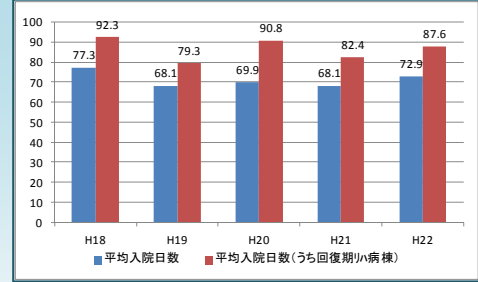
【概要】

- 昭和59年10月開院（築27年）
- 病床数：150床（うち回復期リハ病床100床）
- 運営：県立民営（指定管理）

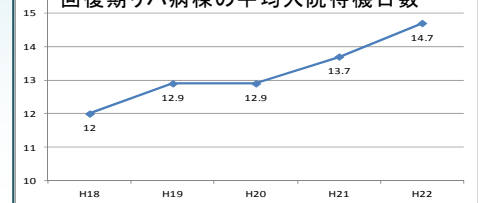
【課題】

- ◆高度・専門的なリハビリテーション医療の提供
高度・専門的な設備・機器の整備が十分でない
- ◆集中的・効果的なリハビリテーション医療の提供
リハビリ訓練時間：92分/日（全国平均：110分）
平均入院日数：87.6日（全国平均：72.7日）
平均入院待機日数：14.7日（年々増加）
- ◆家庭に近い環境での訓練の実施
病棟等が狭隘で日常生活動作訓練が十分でない

平均入院日数



回復期リハ病床の平均入院待機日数



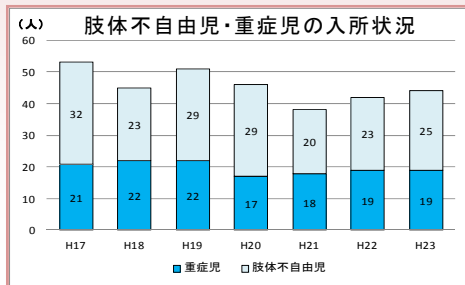
高志学園

【概要】

- 昭和52年9月現地移転（築34年）
- 肢体不自由児施設（76床）
- 運営：県立県営

【課題】

- ◆施設が老朽化
給排水等含め大規模修繕が必要
- ◆利用者の重症化への対応
人工呼吸器等医療機器の整備が必要
- ◆NICUの後方支援機能の充実
重症児受入・在宅支援機能が不足



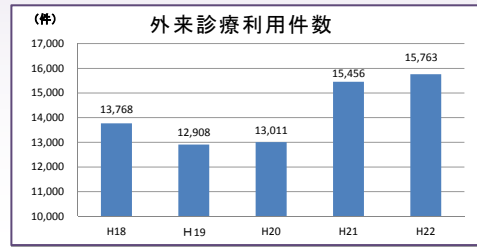
高志通園センター

【概要】

- 昭和59年10月開院（築27年）
- 肢体不自由児通園施設（定員40名）
- 難聴幼児通園施設（定員30名）
- 運営：県立民営（指定管理）

【課題】

- ◆多様なニーズへの対応
発達障害等の長期にわたる専門的な医療を必要とする診療や訓練が増加
- ◆専門医の確保
専門医（児童精神科医）等のマンパワーが不足

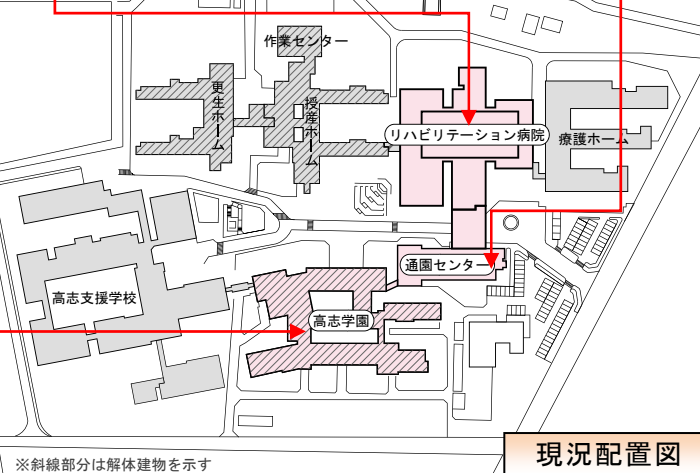


統合再編

3施設がそれぞれ独立して運営

連携体制が必ずしも十分でない

診療窓口・患者情報の分散
病院・施設間の移動負担



現況配置図

2. 整備の基本方針

新たな総合リハビリテーション病院・こども医療福祉センター（仮称）

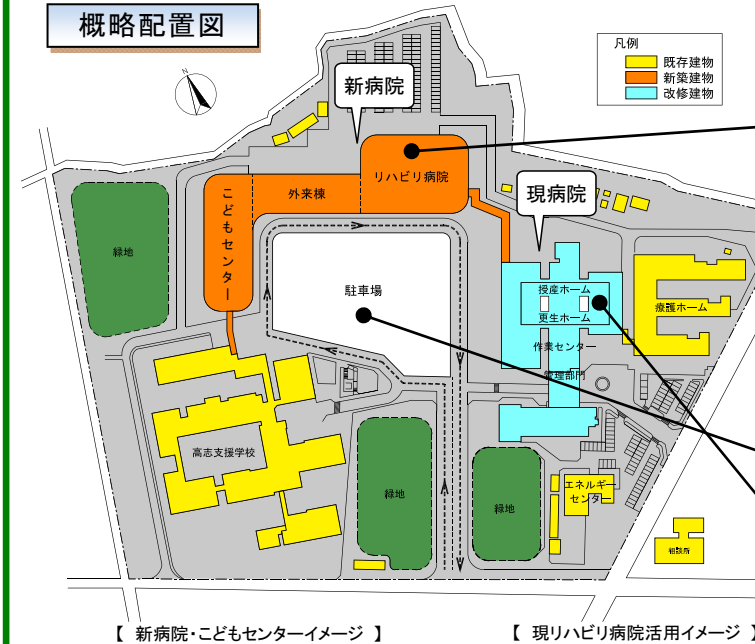
全県レベルでのリハビリ機能の強化

- 幼児期から高齢期までのライフステージに応じたリハビリ医療体制の構築
多職種連携等による医療サービスの質の向上
- 高度専門的で集中的・効果的なリハビリ医療の提供
120分/日以上、365日のリハビリ訓練の実施
- 重症児等へ対応強化(NICUの後方支援体制の充実)
重症児専用病床の整備、短期入所の実施
- 発達障害等の問題を抱える児童への対応
児童精神科医療の充実、多様な障害への対応強化
- 地域リハビリテーションの推進
訪問リハ・訪問看護の拡充など
- 設備・アメニティの向上
病室や訓練スペースの拡充、食堂や浴室等の改善

3. 施設配置計画

新病院は、既存施設の機能をなるべく維持しながら建設できる配置を基本とし、こども医療福祉センターを高志支援学校と近接させるとともに、現病院との一体的な活用や医療的ケアが必要な高志療養ホーム等との連携に配慮した配置とします。

概略配置図



建物は、高志支援学校や現病院へのアクセスを考慮し、「リハビリ病院棟」「外来棟」「こどもセンター棟」の3棟を連結した配置とします。

敷地南側に新たに出入口を設置し、構内道路で建物へアクセスすることにより、中央に十分な広さの駐車場を確保します。

現病院の1～2階部分に「福祉機器展示・体験」「研修」「管理」部門等を配置し、老朽化している「高志授産ホーム」「高志更生ホーム」「高志福祉作業センター」を現病院の病棟部分（3～5階）等に移転するなど、現病院の有効活用を図ります。

【新病院・こどもセンターイメージ】

【現リハビリ病院活用イメージ】

